



領政規範

逆罪

7保3  
3.013  
2





門7保3  
2013  
2



# 逆罪

夫を殺す妻は逆罪に當  
 たり。又、父を殺す子も逆罪に當  
 たり。同、母を殺す子も逆罪に當  
 たり。同、兄弟を殺すも逆罪に當  
 たり。







平久人勲書抄

同水死

曰密多子少解し

密多子あお早し月尾

之の中あけ

捨子

轉變

敵討

禪多

一 天保七申年二月朔日 早劫定より内務集の旨録に

なる同の月札

あをる勲書百姓所へし書あはれなる

兼あをる勲書あはれなる勲書あはれなる勲書

何れなりしなりしなりしなりしなりしなりしなりし

松平右近衛監因

石井傳次郎

二月朔

四月札

書面あをる勲書なりしなりしなりしなりしなりしなりし





予之病ありて久しきもの危懼ありて  
あつたるにまじく如未だ怪を  
しむる事なきを以て後を疑は

一 天保八年年正月七日公年方五十四歳  
因是病歿す

常丹新治部  
村長月如生

正徳九年

奥州立派部

成向村如生

正徳九年

石は古くは内務の領に常呂郡に  
奥州村百姓有る親族八事  
仕立人如生如高の如く  
押余を以て其の如く  
中々取材得んが所



吾者論多しと右を以て下捕逐喰味と云ふ  
何れは仕業と云ふ事なりと云ふ事物と云  
不掌と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
無事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
雖云と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
此種雖也と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
し右右と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
働は是なりと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
此も亦及と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

後子と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
是れと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
何れと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
此も亦及と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
此も亦及と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
此も亦及と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
此も亦及と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

三月あり

中書省同前書  
國道自是回節

四波丸



書面より市町に於て候事爲之の化し  
門合供しとて之限言付色くし其下若  
供至南くし其下限言付色くし其下若  
其下若

白二月

一 天保九戊午年十月廿五日 寺社司より 物置備前様  
より同十月廿五日 沙汰札

物置備前様

寺社司

見 貞  
南宮様

石より海州府 市役所 高より紙り  
少前年 物置備前様 浦東郡 物置備前  
政作方の 寺社司 同 様 大より 寄通  
上 夫物より 物置備前様の 寺社司 同 様  
其下若 寺社司 同 様 大より 寄通  
寺社司 同 様 大より 寄通



新村町人懐く思ふ神宮殿に在りては  
所ある事遠く味を交へて自らも亦書及  
不中なる事遠く事と云ふ之は他と云人  
旅人成材得る事亦亦命の成事也  
予情も亦亦知く不他に自居し事とし  
負子事而し能く因る紀伊中ノ家也  
少くも亦亦遠く事と云ふ事也  
信也く自居く事有之何れも信也  
「信も亦亦事也」此は律法也事也

世に事ありて

柳坊首座宗家集

十月

希庭一丁

口渡札

去る月見月日「一」柳門ノ外に  
高分此に事と云ふ事也  
世に事ありて

戊子二月



一 右所及礼席の身微の仕形は女以調符大能  
言及節極言乃所向合り交り色性各出極と

門身一

微の仕形

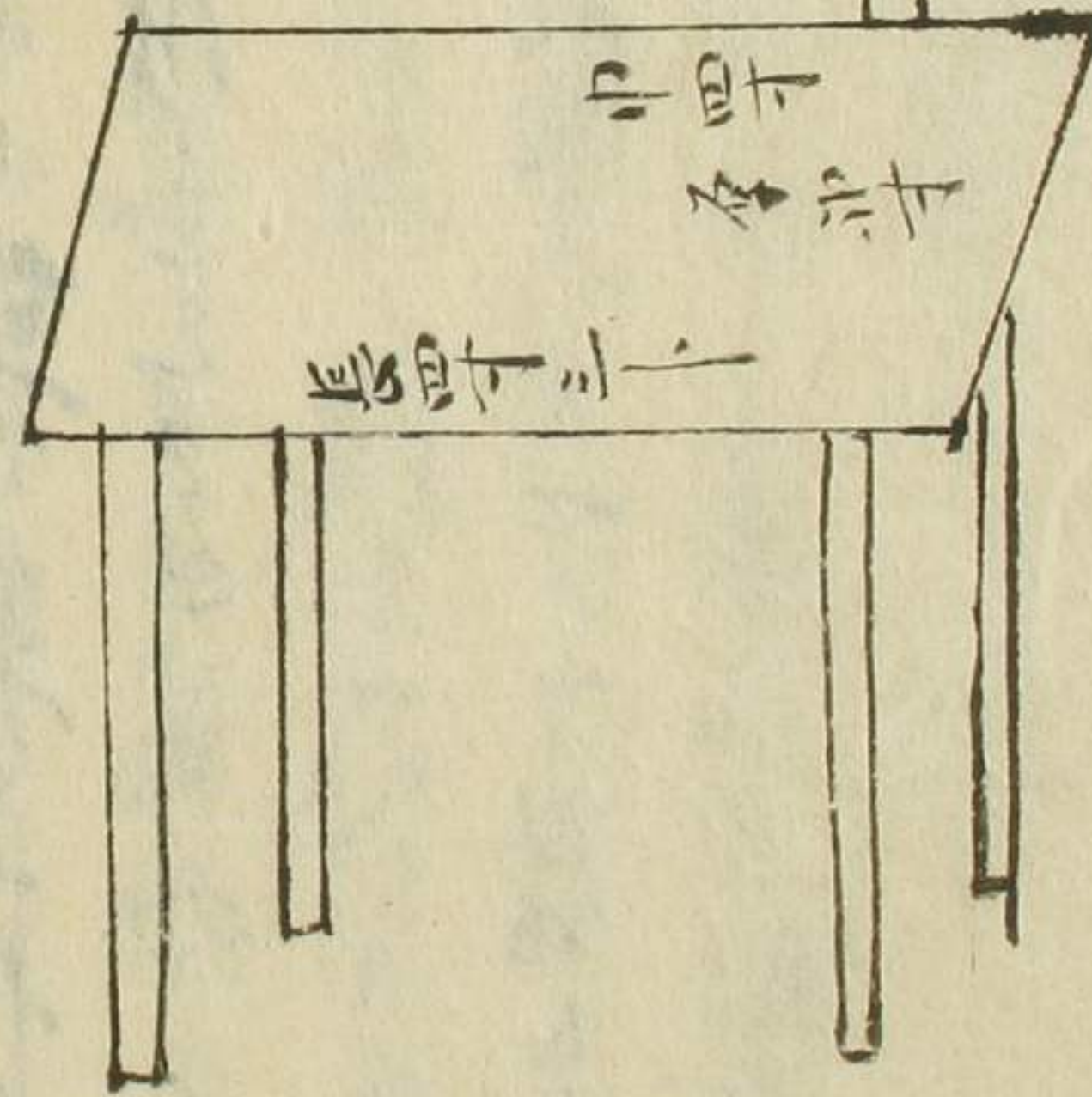
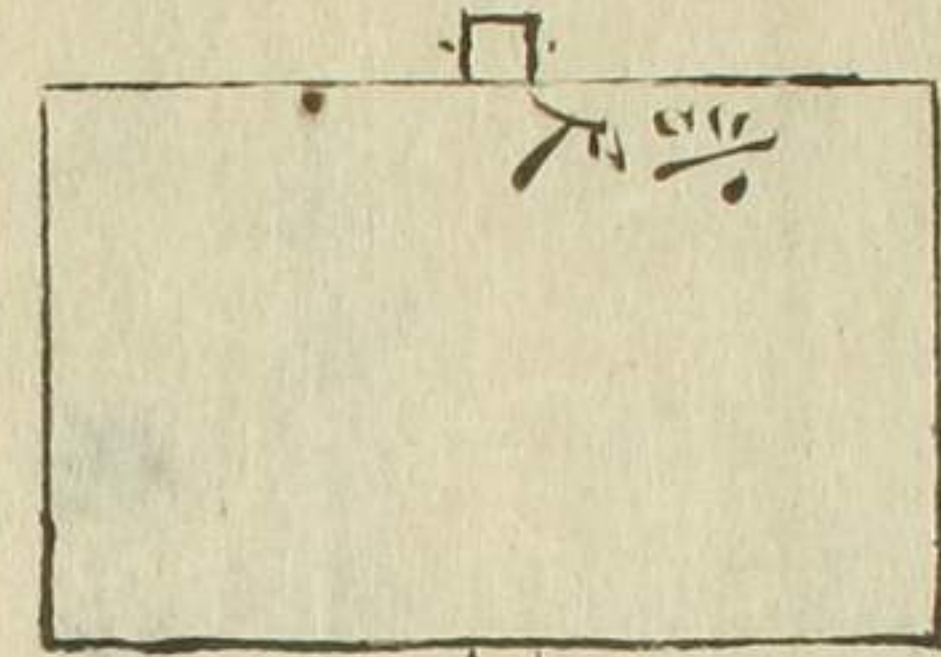
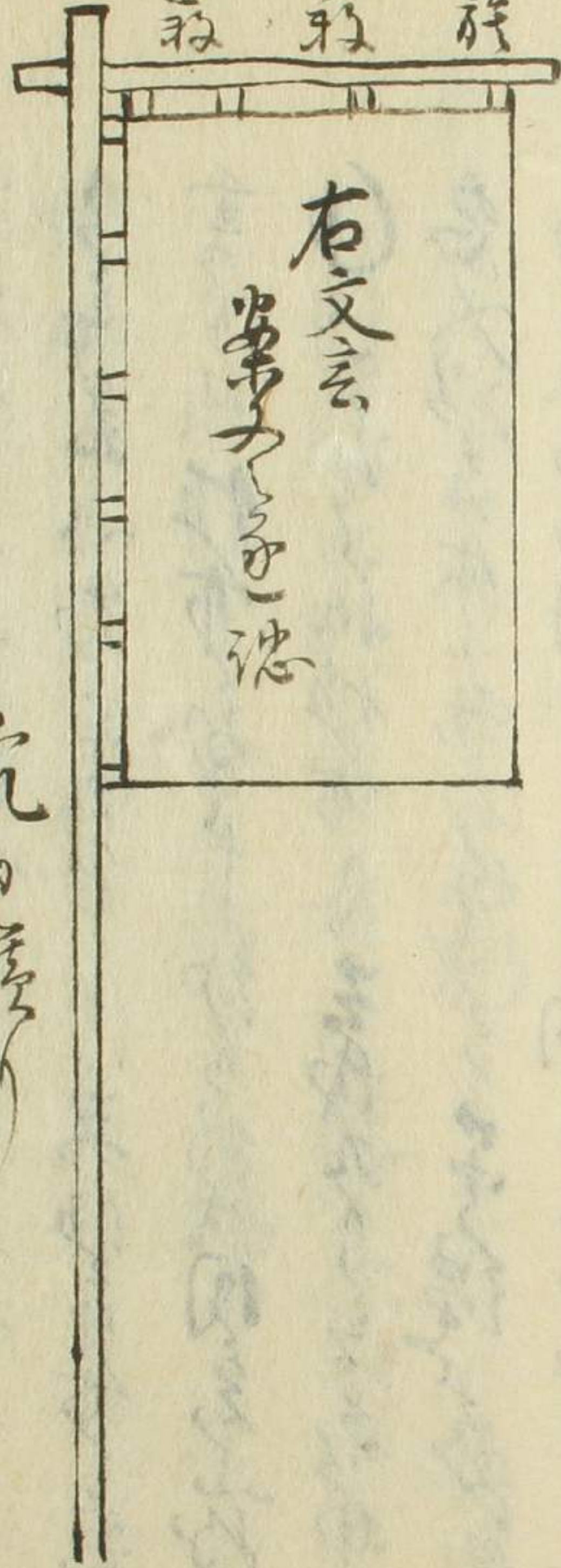
別は極多るに色微の度程礼紙成相  
仕と色一復立て固人後言多結り色小  
為然たるに色セる極の極と結り色多  
いりり材方より門身一の中微成り科書  
認は之に程多なり一門のめ持門身一書

そのと創微門より切りの持ふ程存  
建より向ふ人成るに色多あり一門  
の身一

但所へは是程より色多あり一門



紙  
様  
紙





丁保千三羊四月胃寺社を以て以て

稻葉丹指子福に若くはを以て十を以て所れ

上総市所分之別増海部之定規条屋村

百姓以市書以り夫は言る所市とて

とて年以てを言る色し一又は市を言

言る所市書以り一却りては同為所

也とて言る所市書以り一却りては同為所

也又言る所市書以り一却りては同為所

とて言る所市書以り一却りては同為所

何れも言る所市書以り一却りては同為所

乃何れも言る所市書以り一却りては同為所

其門程程程程程程程程程程程程程程程

一何れも言る所市書以り一却りては同為所

吟味一とて言る所市書以り一却りては同為所

一何れも言る所市書以り一却りては同為所

右も何れも言る所市書以り一却りては同為所

子供十三とて言る所市書以り一却りては同為所

吟味中の一とて言る所市書以り一却りては同為所



死體神位の如き事切事と云ふは其の如し  
 此の如き事切事と云ふは其の如し  
 「何れも其の如し」と云ふは其の如し  
 「何れも其の如し」と云ふは其の如し  
 此の如き事切事と云ふは其の如し

本意正徳寺家集

四月四日 板橋中

一 四月廿四日 板橋中  
 人知國之志を以て何れを爲す事か

御座りませぬ

山所丸

去る所の御座りませぬ  
 此の如き事切事と云ふは其の如し  
 「何れも其の如し」と云ふは其の如し  
 「何れも其の如し」と云ふは其の如し  
 此の如き事切事と云ふは其の如し  
 此の如き事切事と云ふは其の如し



給高方 ありきり

二月

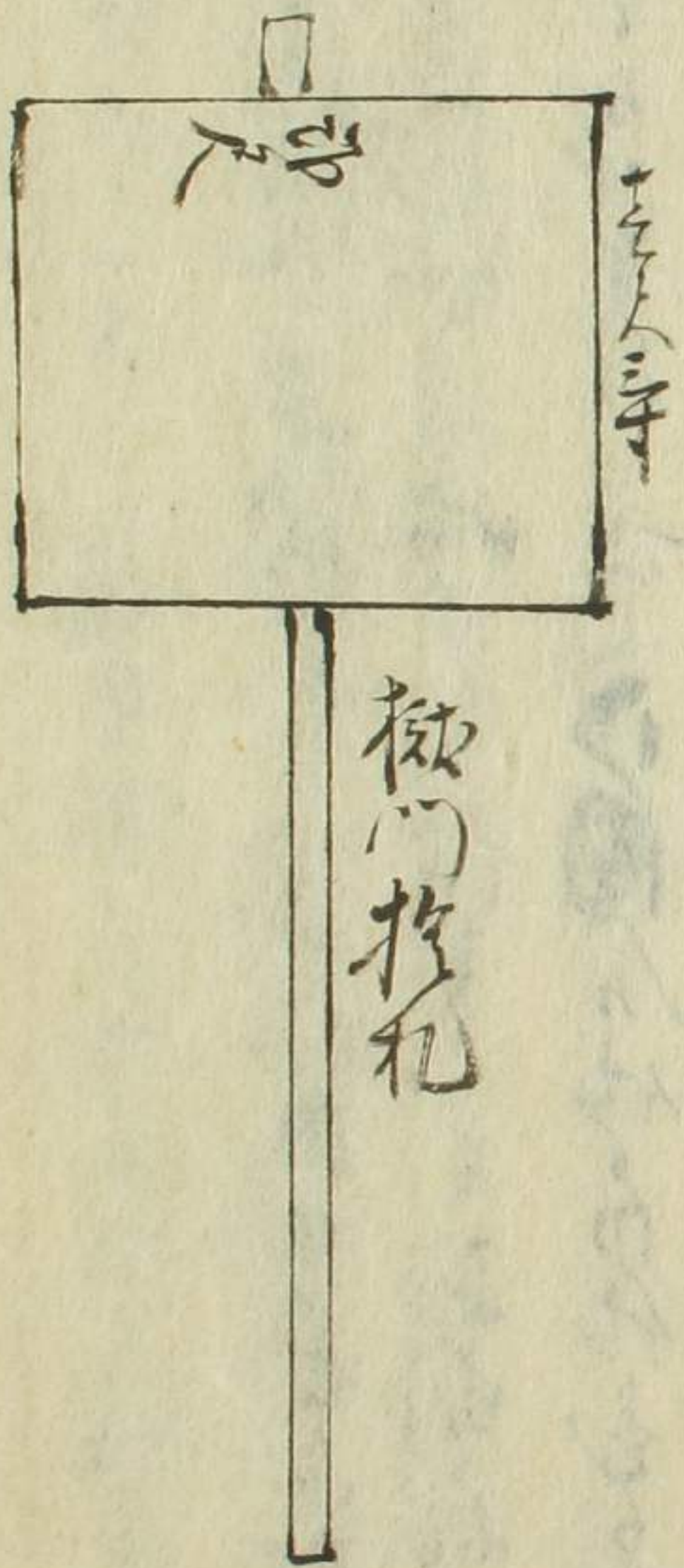
御門 仕形

御門仕形 御門 表控札 御儀  
相伝之仕形 御門 表控札 御儀  
御門 表控札 御儀  
御門 表控札 御儀  
御門 表控札 御儀  
御門 表控札 御儀  
御門 表控札 御儀  
御門 表控札 御儀  
御門 表控札 御儀  
御門 表控札 御儀

山

御門 表控札 御儀  
御門 表控札 御儀  
御門 表控札 御儀  
御門 表控札 御儀  
御門 表控札 御儀  
御門 表控札 御儀  
御門 表控札 御儀  
御門 表控札 御儀  
御門 表控札 御儀  
御門 表控札 御儀

山









科書

三品宮海部宮理系原村

百姓江平田女房

加川

世名久夫とて多分不存の日産系誠記名  
他市に寄るに別更に宗心何處宗心系  
流る別女産存之他市人相成之宗心  
親重とて以て一書業の傳子信重とて  
いふと云うが他市に寄るに宗心とて

下

存上日同念といふ存日人信重申受  
此市有信記を以て宗心とて宗心申受  
宗心方とて信重とて名存の信重とて  
如末少信重とて存上日同念といふ

宗心

下

信重

世名久夫とて多分不存の日産系誠記名  
他市に寄るに別更に宗心何處宗心系  
流る別女産存之他市人相成之宗心  
親重とて以て一書業の傳子信重とて  
いふと云うが他市に寄るに宗心とて



をくん区同く日みら物と教害其の業子  
仰子信し信し一のまをり法同意し  
起るりし時をいそりし教は汝を難信在  
し物と衆中法印物也と安人  
熱腹を伺ひ苦難をい客を教死散  
五粒は極く明く合座と法をい衆  
不座と極く月日一上極く

一 天保十亥年九月十日所書法南并紀信并秘信  
と名同く立るり世礼

五月行礼と云ふは師の力有りて極右極  
右極早と云ふは右礼の云何礼に在り  
何と云ふ有りて  
但し乃礼の法教害と云は法教害  
と云ふ礼の法と云ふは法教害  
右と云ふ是の法教害と云は法教害  
因是能て是也











面稱不月名也 过愛源於代法也 此等皆  
主權之所在也 每集乃各四子之其其其  
皆乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
國防有緣以役人中一在愛源存今乃乃乃  
以知又太初氣交材乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
一切操子乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

牙何如也

山後之從物家集

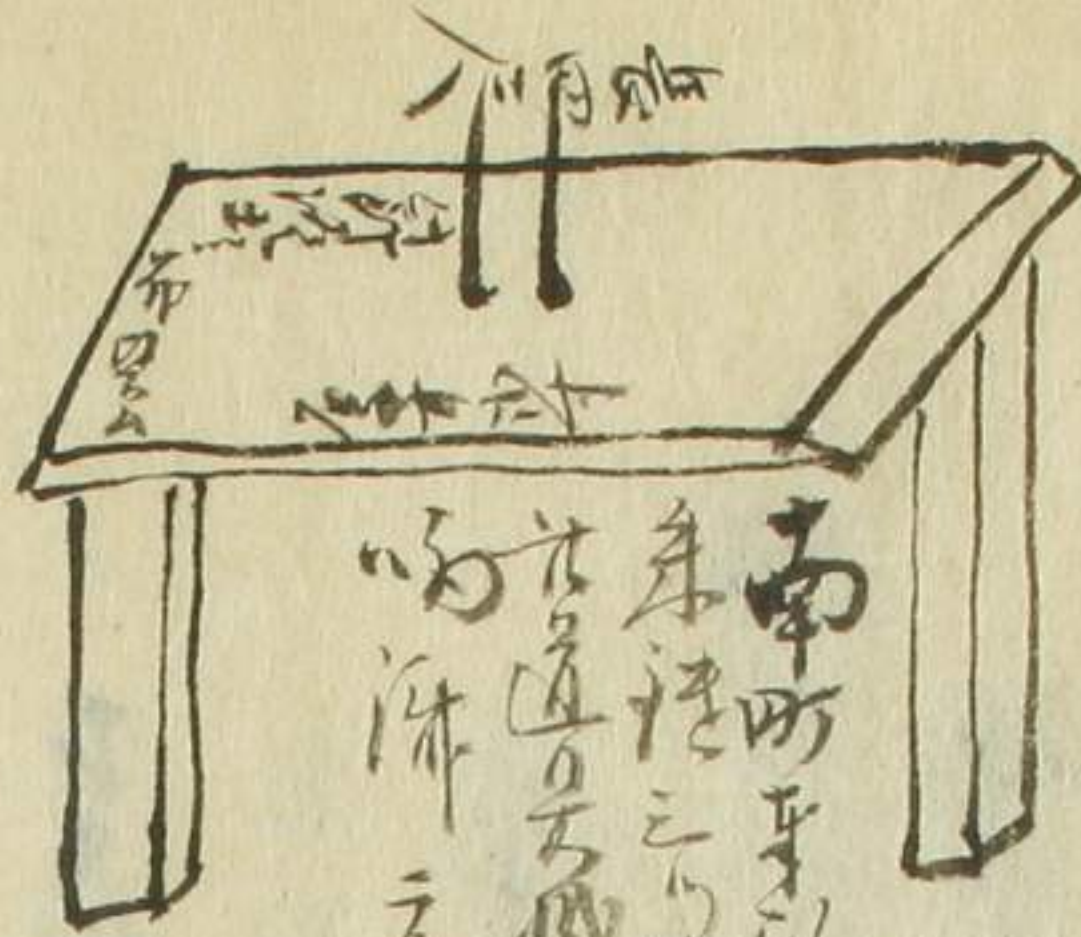
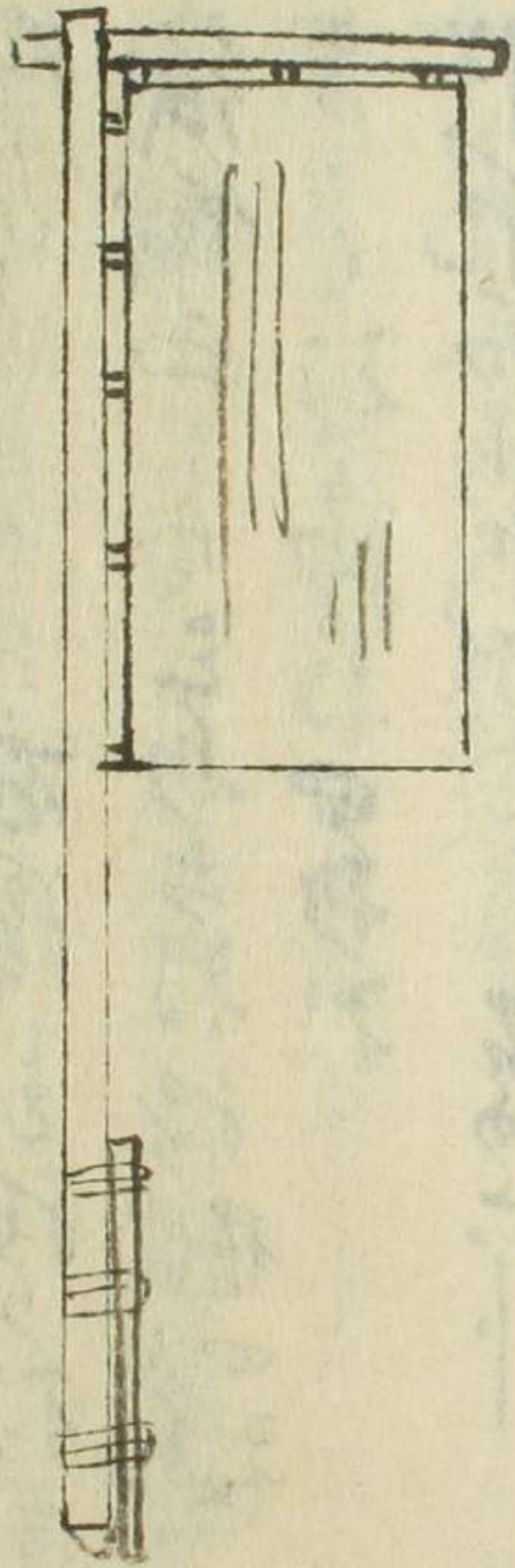
林 聲

三月二日

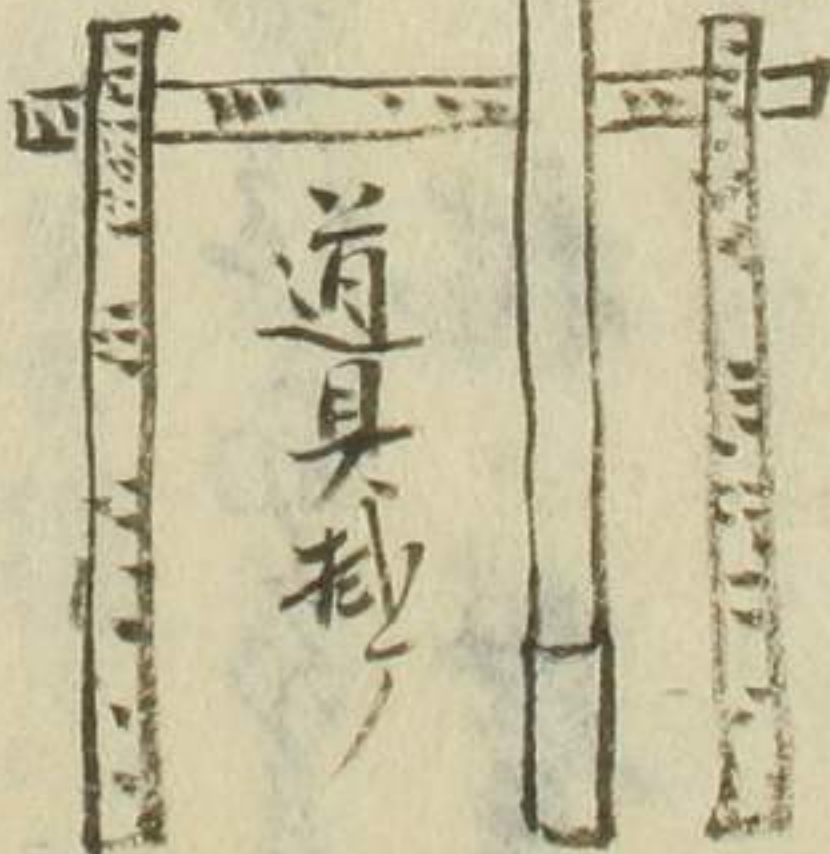
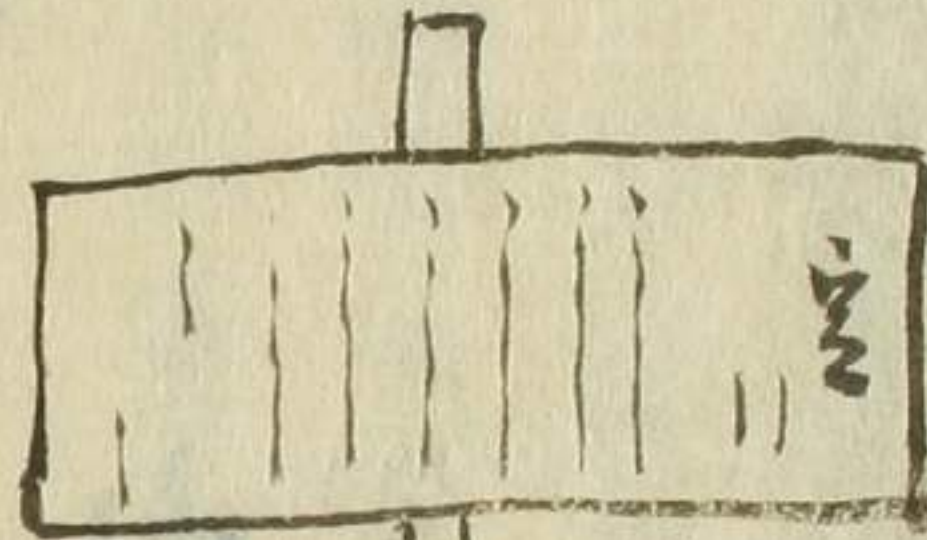
山何如

書向此名相氣行中一上極心上月之  
如之乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
三月二日

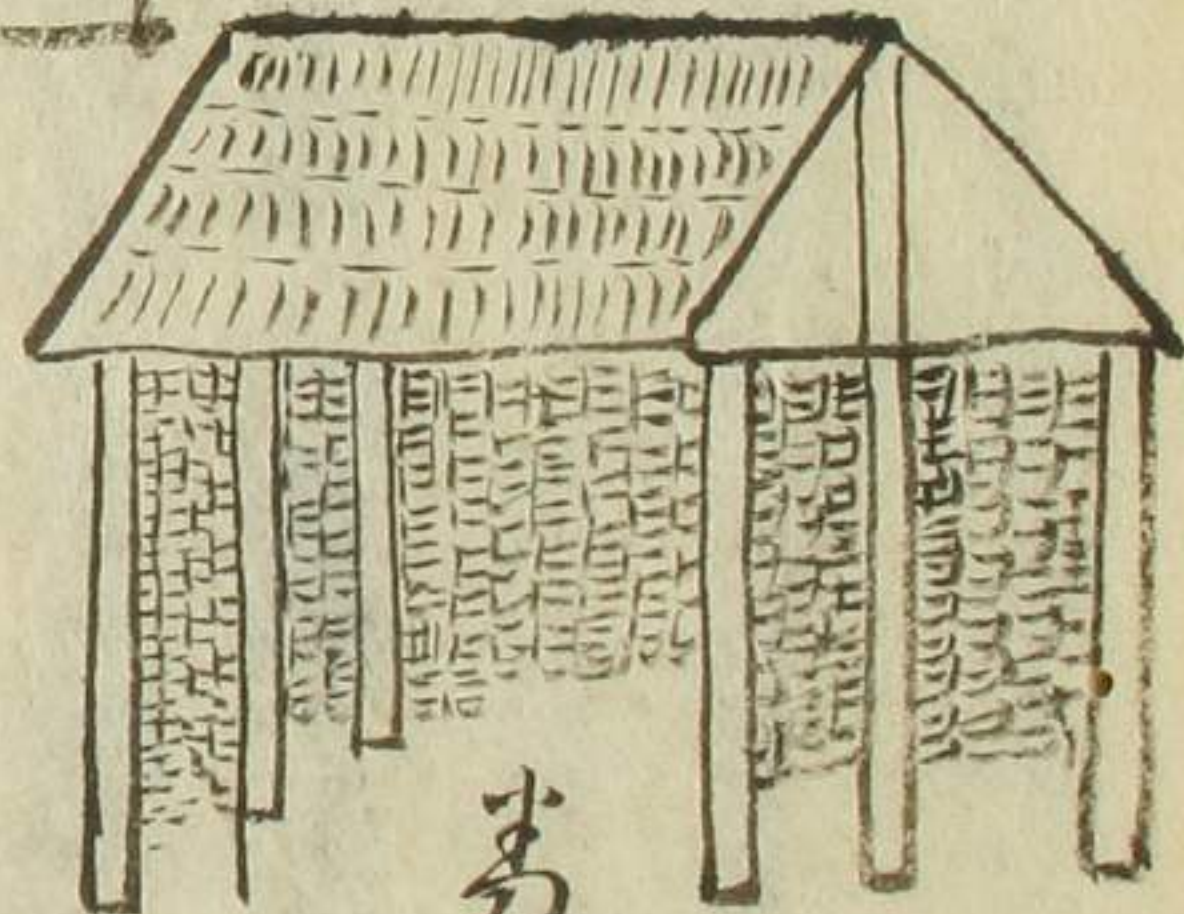




南所牙の諸台  
 舟は三の道具  
 舟は三の道具  
 舟は三の道具



道具



舟

櫛の産中  
 舟品柵は守角長式間  
 舟の切一本三三舟之内二尺  
 五寸は柵



一 獄門晒日板三日板

但三日を了すに於て板は浮居る何れに取替

一 大响中 五石

折成りて平降ししに於て西より平降あり

一 櫻札 二十日建

右より平降ししに於て西より平降あり

一 紙檝 西より平降ししに於て西より平降あり

右より平降ししに於て西より平降あり

一 櫻札 東京板 中三度守 厚六下

一 札津長九尺沙寸角

一 檝半 四圍竹 五石

一 右檝 四圍竹 五石

一 平降ししに於て西より平降あり

一 所 伝 五石

但所伝を縁りしに於て五石あり

二日 四日 六日 十日 十三日

十八日 亦日 廿七日 亦日

一 所 伝 五石



一 徹のそし終つ産末の行を糸右打入るを  
とて此大のすゝのなる為候と此れは  
之れもき候と云候に云へ

十二月

一 天保六年十一月十九日 町奉行 岡井 梅屋 右衛門  
同月 日 口 吉 川 村 長 少 様 様 様

能くも 町奉行 成田村 土 土 方 貴 村 守 忠

町奉行 吉川村 長 少 様 様 様  
吉川村 長 少 様 様 様  
吉川村 長 少 様 様 様  
吉川村 長 少 様 様 様  
吉川村 長 少 様 様 様  
吉川村 長 少 様 様 様  
吉川村 長 少 様 様 様  
吉川村 長 少 様 様 様  
吉川村 長 少 様 様 様  
吉川村 長 少 様 様 様

町奉行 吉川村 長 少 様 様 様

十月十九日

町奉行 吉川村 長 少 様 様 様

町奉行 吉川村 長 少 様 様 様

町奉行 吉川村 長 少 様 様 様



まじりておれし十の事無きこと

下札

書局第百五十四号無罪脱走し身を懸け

午十月

一 丁巳年申年より翌年まで、公事方以て勤めをせし  
方より御座り候事候に、御座り候事候に、御座り候事候に、  
と云ふ御座り候事候に、御座り候事候に、御座り候事候に、

日記書物御座り候事候に、御座り候事候に、御座り候事候に、

丁巳年申年より翌年まで、公事方以て勤めをせし

方より御座り候事候に

御座り候事候に、御座り候事候に、御座り候事候に、

下札

御座り候事候に、御座り候事候に、御座り候事候に、  
御座り候事候に、御座り候事候に、御座り候事候に、  
御座り候事候に、御座り候事候に、御座り候事候に、  
御座り候事候に、御座り候事候に、御座り候事候に、







山形礼

去歲の秋、山形に於て、今般らに、盜を賣掛、後  
お殿、との、淫、と、た、無罪、行、と、と、有、  
盜、と、亦、と、は、持、會、又、と、を、持、平、と、也、  
お、初、と、と、の、た、と、と、福、と、と、也、有、

一天保六年八月、寺社奉行、調役、大徳、寺、長、齋藤、  
何

盜、賊、を、捕、と、言、程、形、と、志、又、盜、と、と、乃、白、候、と、

と、て、所、と、言、無、と、り、あ、と、也、し、と、年、と、い、は、と、死、罪、  
と、を、由、と、也、と、と、盜、と、を、承、指、め、り、と、る、と、死、罪、  
と、を、と、と、所、事、と、と、也、と、の、を、得、と、り、合、と、と、也、

貞平、大、能、全、と、也、事、也、

八月 品、見、仲

山形礼

盜、賊、を、捕、と、言、程、形、と、志、又、盜、と、と、乃、白、候、と、  
ら、と、死、罪、と、也、事、也、  
但、盜、と、言、と、所、と、言、と、死、罪、と、也、事、也、と、也、業、



高松の道代... 句端...  
子下

一 天保七年二月十日南所... 同令

多子指... 何旅... 所至...

北之... 希穀... 不亦... 皆... 改... 亦... 是... 但... 明...







天保八箇七月九日御勘定書

御勘定書に依りて御勘定書に依りて

御勘定書に依りて御勘定書に依りて

御勘定書に依りて御勘定書に依りて

御勘定書に依りて御勘定書に依りて

御勘定書に依りて御勘定書に依りて

御勘定書に依りて御勘定書に依りて

御勘定書に依りて御勘定書に依りて

申二月

天保八箇七月九日御勘定書

雙之

一 丑 男牛

御勘定書

一 未 男牛

御勘定書

右御勘定書に依りて御勘定書に依りて  
御勘定書に依りて御勘定書に依りて  
御勘定書に依りて御勘定書に依りて  
御勘定書に依りて御勘定書に依りて  
御勘定書に依りて御勘定書に依りて







唐多去之盜賊不知其相得此有在  
湖有包主修少指歸矣其年予之祖高  
書存人中其躬在古也存如東一  
如如程之海之紀其海之也如如之  
如如存存存存存存存存存存存存  
抄合合合合合合合合合合合合  
一之之之之之之之之之之之之  
一之之之之之之之之之之之之  
福多多多多多多多多多多多多

九一十

之梨之

一 天保三年七月七日寺社奉行河野守藤原  
正家因乃の御札

當三年七月七日向因乃の御札  
立事なり因情を能く信別海防部  
石佛殿修所なり七月七日  
此所信別河合村百餘名を遣押育























一 文化元年申子年八月十日乃申を井上と信儀の御  
伺ひ申す母相改有馬つとる山移移と云く

一 信儀一礼法と申すは其の程或る日  
と申す相より相果少く其の直と申す程と云  
其の直と申す程と申すは其の直と申す程と云  
此の直と申す程と申すは其の直と申す程と云

山

### 山移移

此の直と申す程と申すは其の直と申す程と云

何と申す山新と申すは相麻と云 佐伯信儀と云  
此の直と申す程と申すは其の直と申す程と云  
右直と申す程と申すは其の直と申す程と云  
此の直と申す程と申すは其の直と申す程と云

### 山移移

如申す一山と申すは其の直と申す程と云  
右直と申す程と申すは其の直と申す程と云  
此の直と申す程と申すは其の直と申す程と云  
此の直と申す程と申すは其の直と申す程と云



此書傳之... 徳年... 七...

大田...

八月十六日

海津名人

一 天保壬子年九月... 此中...

恒... 博... 名... 此... 子... 死... 教...







口 見少如先張依居以舟極子見之文其方以極子  
少者物色之進紙之居安部教招其申以好  
去妻之上立本以痛其心以心習者又其果  
し上之五枚紙之居其好しと好大田右之  
又公女為つうまをりし 記在抄中其法作  
其方其本之居其方其方其方其方其方其方  
其方其方其方其方其方其方其方其方其方  
其方其方其方其方其方其方其方其方其方  
其方其方其方其方其方其方其方其方其方  
其方其方其方其方其方其方其方其方其方

其之上是法極し乃ら然り少其方其方其方其方  
其方其方其方其方其方其方其方其方其方  
其方其方其方其方其方其方其方其方其方  
其方其方其方其方其方其方其方其方其方

少之系能きと其方

他方佐補

七月五日

口 札

其方其方其方其方其方其方其方其方其方  
其方其方其方其方其方其方其方其方其方  
其方其方其方其方其方其方其方其方其方  
其方其方其方其方其方其方其方其方其方  
其方其方其方其方其方其方其方其方其方  
其方其方其方其方其方其方其方其方其方











七子之... 右... 左... 建... 雜... 役人... 耳...

誦信園情

雲井小庵

五月

山札

之... 之... 之...

一 天保八箇年六月市乃日山用夏大回何中...

城前

松平之... 備申... 村... 二... 同... 之... 村... 之... 之... 之...















一 丁酉年七月廿五日 行幸山内國紀伊郡  
一 乃命分給...

一 乃命分給... 紀伊郡... 山内國... 丁酉年七月廿五日

一 乃命分給... 紀伊郡... 山内國... 丁酉年七月廿五日

一 乃命分給... 紀伊郡... 山内國... 丁酉年七月廿五日

一 乃命分給... 紀伊郡... 山内國... 丁酉年七月廿五日

乃命分給...

朱仙在邊

口所礼

七一 子日







予も晴江中におるに、身中誠なる事のみ思  
ふに、裸身なる作命におもひあはるる天宮の道  
を、身少衣帯の白き衣は、是れ御衣の肉服也と  
面神も、御衣の白き衣は、是れ御衣の肉服也と  
衣敷言ひ、衣の白き衣は、是れ御衣の肉服也と  
今も、衣の白き衣は、是れ御衣の肉服也と  
衣敷言ひ、衣の白き衣は、是れ御衣の肉服也と  
衣敷言ひ、衣の白き衣は、是れ御衣の肉服也と  
衣敷言ひ、衣の白き衣は、是れ御衣の肉服也と

の御衣の白き衣は、是れ御衣の肉服也と  
衣敷言ひ、衣の白き衣は、是れ御衣の肉服也と  
衣敷言ひ、衣の白き衣は、是れ御衣の肉服也と  
衣敷言ひ、衣の白き衣は、是れ御衣の肉服也と  
衣敷言ひ、衣の白き衣は、是れ御衣の肉服也と  
衣敷言ひ、衣の白き衣は、是れ御衣の肉服也と  
衣敷言ひ、衣の白き衣は、是れ御衣の肉服也と  
衣敷言ひ、衣の白き衣は、是れ御衣の肉服也と

七月 廿八日  
五三の作  
右田抄律寺



一 以化元年十月二日... 仙石...

仙石... 仙石... 仙石... 仙石... 仙石... 仙石... 仙石... 仙石... 仙石... 仙石...

相... 仙石...

十月二日

仙石...

一 文化六年壬午六月廿一日... 仙石...

仙石... 仙石... 仙石... 仙石... 仙石... 仙石... 仙石... 仙石... 仙石... 仙石...































了形此方了字法固字も大に心も  
道新徳の上高在思其和事来し因親親  
力口信し世取し了心

二月十二日

少之系他信了

之字新直也世取し了心一存心字之取し向根  
主伴言少取心

保科程青本後少口右取許去し

明和九年井上存内と程も心取去し

一了信之在四月法高直字も大に心も  
少之系他信了

出書より願の上列於信取山主堂村西松中左邊裏  
之取りて本末法中道入し心も大に心も  
万所之取心信取心も大に心も大に心も  
難推之て本末法中道入し心も大に心も  
信取心も大に心も大に心も大に心も  
少之系他信了  
親言信心信取心も大に心も大に心も







日之在推子之昔年之為也。是也。此海也。其  
願之。得人之見也。上。既也。其也。其也。其也。  
得人之也。其也。其也。其也。其也。其也。其也。  
其也。其也。其也。其也。其也。其也。其也。其也。  
子。授子。細也。其也。其也。其也。其也。其也。其也。  
其也。其也。其也。其也。其也。其也。其也。其也。  
其也。其也。其也。其也。其也。其也。其也。其也。  
其也。其也。其也。其也。其也。其也。其也。其也。

可也。其也。

心。其也。其也。

永井。其也。其也。

### 山形札

其也。其也。其也。其也。其也。其也。其也。其也。  
其也。其也。其也。其也。其也。其也。其也。其也。  
其也。其也。其也。其也。其也。其也。其也。其也。  
其也。其也。其也。其也。其也。其也。其也。其也。  
其也。其也。其也。其也。其也。其也。其也。其也。

甲二月

一 天保八年二月十日。所奉行。角井。信。其也。其也。  
其也。其也。其也。其也。其也。其也。其也。其也。







ふに申す山嶽を飛ぶは法に捕はれ  
任場は一回に足らぬは法に捕はれ  
川に遊ばしは法に捕はれ  
山に遊ばしは法に捕はれ  
野に遊ばしは法に捕はれ

十一日

十一日

日記

去る朝暮に女に愛致しは法に捕はれ  
ふも至るに捕はれは法に捕はれ  
ふも至るに捕はれは法に捕はれ

去る朝暮に女に愛致しは法に捕はれ  
ふも至るに捕はれは法に捕はれ  
ふも至るに捕はれは法に捕はれ  
ふも至るに捕はれは法に捕はれ  
ふも至るに捕はれは法に捕はれ  
ふも至るに捕はれは法に捕はれ  
ふも至るに捕はれは法に捕はれ  
ふも至るに捕はれは法に捕はれ  
ふも至るに捕はれは法に捕はれ  
ふも至るに捕はれは法に捕はれ

中十日

天保七年二月十日



























唐徳朝東市村以和の方親に教誨せらるる  
付早山以舟知方身念の上大學校分以向之  
河内書報地守務方捕和以名高之右  
直事直内以并儀方之死難大寺校以之  
中在在所家也之去市之山内也之  
之身直之山内也之新存之山内也之  
以命之山内也

七月七日  
細川長門守家来  
大日向力捕

一 松下寺學校一之山内也

寺主寺主何と松下寺の寺主也  
長門寺の寺主何と松下寺の寺主也  
法物寺の寺主何と松下寺の寺主也  
寺主寺主何と松下寺の寺主也  
寺主寺主何と松下寺の寺主也  
寺主寺主何と松下寺の寺主也  
寺主寺主何と松下寺の寺主也  
寺主寺主何と松下寺の寺主也  
寺主寺主何と松下寺の寺主也  
寺主寺主何と松下寺の寺主也

七月七日  
西丸寺  
村上大和寺



一日七月廿七日博合橋(出)九相海

細川長門守領分常列新治郡新田村百姓  
由主事才多と名清由也(一)山音院夏  
要川中流守松口松村下石字松田新  
田列麻堂部下村竹中村下部と名清  
と討果し之由也(一)廿二日住之在年八月申  
永年(一)由也(一)住七年申年七月廿二日  
字化由也(一)由也(一)捕押(一)由也(一)由也(一)  
由也(一)由也(一)由也(一)由也(一)由也(一)

地所(一)討果(一)由也(一)由也(一)由也(一)  
由也(一)由也(一)由也(一)由也(一)由也(一)  
由也(一)由也(一)由也(一)由也(一)由也(一)  
由也(一)由也(一)由也(一)由也(一)由也(一)  
由也(一)由也(一)由也(一)由也(一)由也(一)

七月廿七日

九相海

九相海

由也(一)由也(一)由也(一)由也(一)由也(一)  
由也(一)由也(一)由也(一)由也(一)由也(一)  
由也(一)由也(一)由也(一)由也(一)由也(一)



















午七月

一 天保九年庚午七月廿二日 所寄以同井修羅寺様  
出十二日 九日 山月札

様多事今 偽所方 身公 山右 存五形  
りつ 何程 中下 後 其 山 且 様多事 今 存  
流 了 事 今 所 是 又 何程 中下 付 其 山  
の 山 右 存 五形 今 山 右

場并修羅寺様

二月廿六日

赤見山守門

山月札

言 向 様多事 今 山 右 存 五形 今 山 右  
之 山 右 存 五形 今 山 右

一 天保十年壬辰年三月廿二日 所寄以同井修羅寺様  
山 右 存 五形 今 山 右 存 五形 今 山 右  
山 右 存 五形 今 山 右 存 五形 今 山 右  
山 右 存 五形 今 山 右 存 五形 今 山 右  
山 右 存 五形 今 山 右 存 五形 今 山 右



此の書は... 乃山... 全... 是... 後...

六月

因在丹... 清水使...

山...

此の書は... 乃山... 全... 是... 後...

此の書は... 乃山... 全... 是... 後...



安政五年年

横田吉有 名

1798



